愚なる妻（1921）

FOOLISH WIVES

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 108分
初公開日 1923/02
公開情報 劇場公開

【解説】

不夜城モンテカルロの壮麗なセット他、金に糸目はつけないシュトロハイムの狂的な完全主義が大いに発揮された、本来は３４巻（約６時間）から成ったという大作を、ユニヴァーサルは公開時に１０巻に短縮してしまった。現在見られる版もそれで、後段、コンティニュテイの怪しくなること甚だしいのだが、それでも、天才の偉業の“片鱗”以上のものを存分に窺い知ることができる。

モナコのアモロサ荘に三人のロシア貴族が集う。公爵夫人オルガ、公爵令嬢ベラ、と二人の従兄、大尉カラムジン伯だ。朝食のシリアル代わりにキャビアを喰う遊蕩生活を送り、彼らは金に困っていた。その時目にした米公使来訪の報。三人は公使夫人をカラムジンの手管で篭絡し、金を巻き上げようと企む。まずは射撃会で夫妻と近づきになり、後はとんとん拍子で、伯爵は週末のドリーム館へ夫人を誘う。そして、嵐の気配を察してわざと散策に出て迷い、不気味な婆さんの小屋を訪れ、一夜の宿とする（彼が暖炉にあたりながら、濡れた衣服の着替えをする夫人を手鏡で覗く場面のいやらしさ！）。が突然の神父の訪問で、本懐を遂げることなくその晩はすぎ、しばらくして伯爵は夫妻をカジノに誘う。ルーレットの資金を夫人に出させ、１０万フランを獲得させた伯爵は、自分の屋敷に彼女を呼びつけ、財産のすべてを祖国につぎ込んで金が要る、と９万フラン無心する。一方で秘密裏に作った偽札を公使たちとのポーカーの過程で本物の札とすり替える従妹たち。夫人は伯爵に喜んでお金を譲るが、それを隠れ聞いていた伯爵お手つきのメイドが、嫉妬から二人を閉じ込め、館に火を放ってしまう（その狂気演技が凄烈）が、間一髪の所で救われ、メイドは自殺。後が判然としないのだが、伯爵は何者かによって酷たらしく殺され、エピローグでこれが物語の中の事件であったことが（取ってつけたように）匂わされる。ともかくスキャンダラスな素材をねちっこい描写で見せて、今でも虚を突かれる映像に満ちた怪作だ。

【クレジット】

監督	エリッヒ・フォン・シュトロハイム	Erich von Stroheim
原作	エリッヒ・フォン・シュトロハイム	Erich von Stroheim
脚本	エリッヒ・フォン・シュトロハイム	Erich von Stroheim
撮影	ベン・レイノルズ	Ben Reynolds
出演	エリッヒ・フォン・シュトロハイム	Erich von Stroheim
	ルドルフ・クリスティアンズ	
	ミス・デュポン	
	モード・ジョーンズ	
	メエ・ブッシュ	Mae Busch
	ハリソン・フォード	Harrison Ford

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.